

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	54人	算数	54人	理科	54人
第5学年	国語	55人	算数	55人	理科	55人

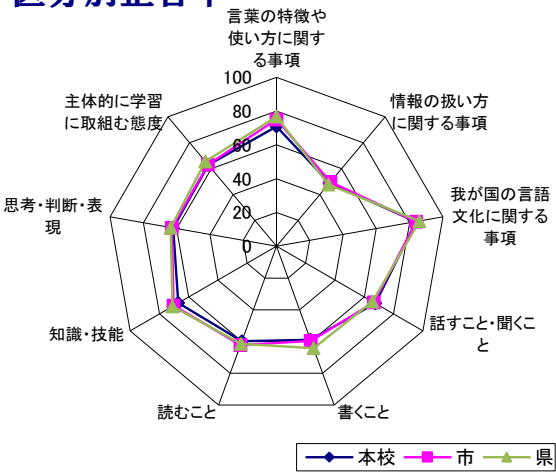
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立御幸小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	70.9	75.1	76.7
	情報の扱い方に関する事項	48.8	49.6	47.8
	我が国の言語文化に関する事項	83.9	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	67.5	66.5	65.5
	書くこと	58.9	59.6	64.2
	読むこと	59.8	62.2	61.5
観点	知識・技能	67.1	70.2	71.1
	思考・判断・表現	62.1	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	62.9	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

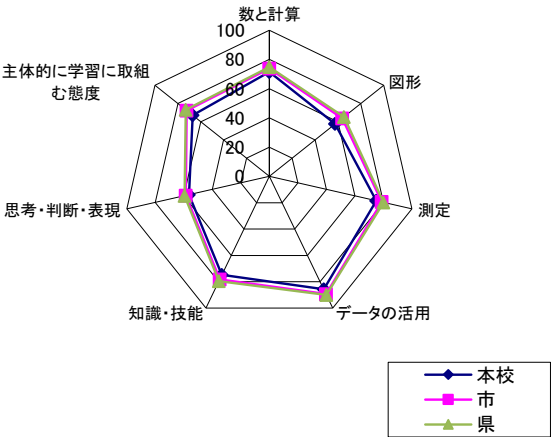
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は70.9%で、市の平均より4.2ポイント低い。 ○漢字の読みは、どの問題も正答率は80%を超えている。 ●言葉の学習については、様子や行動を表す語句の正しい使い方の正答率が、市より10.3ポイント低く、ローマ字の読みにおいては市より9.8ポイント低い。	・ドリルなどを使った繰り返しの漢字練習だけでなく、決められた漢字を使った作文に取り組ませることで、文章の中で正しく漢字を使うことができるようにする。また、教科書に出てくる語句を使った作文に取り組ませることで、語彙が豊かになるようにする。 ・ローマ字の読みについては、朝の学習や宿題などで復習できるようにする。特に拗音の表し方を理解していない児童の割合が高かったため、重点的に課題に取り入れる。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は48.8%で、市の平均と同程度である。 ○情報と情報との関係について理解し、話し手が伝えたいことの中心をとらえることについての正答率は、市よりも9.6ポイント高い。 ●国語辞典の使い方については、市より10.4ポイント低く、調べた情報から文の内容にあった意味を選ぶことに課題が見られた。	・わからない語句があったときには、国語辞典を使って調べる習慣をつけ、複数の情報の中から文の内容にあった意味を選ぶことができるようにしていく。 ・国語だけでなく、さまざまな教科の学習で資料の読み取りや活用場面を設定したり、お互いの考えを聞きあう場を設定したりすることで、情報の内容を理解し、関係づけて考える力を伸ばせるようにしていく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は83.9%で、市の平均と同程度である。 ○漢字のへんとつくりについては、正答率が80%を超えている。	・新出漢字を扱うときには、漢字のへんやつくりにも注目させるようにし、理解を深められるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は67.5%で、市の平均と同程度である。 ○相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら話すこと、話し手が伝えたいことの中心を捉えることについての正答率は、いずれも市より5ポイント以上高い。 ●互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることについての正答率は、市より5ポイント以上低い。	・各教科の活動や学級活動の話合いの場面等において、お互いの意見のよさ、共通点や相違点に目を向け、自分の考えを深めていけるようにする。 ・自分の考えを分かりやすく伝えることができるよう、ペア学習や少人数での話合い、朝のスピーチ等の場面で、理由を挙げて話すことや伝えたいことの中心がわかるように話すことについて指導していく。
書くこと	平均正答率は58.9%で、市の平均と同程度である。 ○自分の考え、考えを支える理由や事例を明確にして文章を書くことについての正答率は、市と同程度であった。 ●指定された長さで文章を書くことや段落構成を考えて文章を書くことについての正答率は、市を下回っている。	・相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら書くように指導をする。 ・読書活動や授業の振り返り等、様々な機会に文章を書く経験を積み重ねられるようにし、その都度、書く視点や要点を押さえた書き方、段落構成について指導する。 ・日記指導等を通して、日常生活の中でも書くことを取り入れるようにする。
読むこと	平均正答率は59.8%で、市の平均より2.4ポイント低い。 ○物語の内容の読み取りについての正答率は、市と同程度であった。 ●説明文の内容の読み取りについては、叙述をもとに文章や段落の内容を捉えることの正答率が、市より5ポイント以上低い。	・説明文については、段落相互の関係に着目したり、考えとその理由や事例との関係を捉えたりできるよう繰り返し指導する。 ・朝の読書タイムや図書室の利用を通して、物語文だけでなく説明文にも触れる機会を増やす。

宇都宮市立御幸小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.5	73.8	74.8
	図形	57.5	63.7	65.3
	測定	75.0	78.9	80.1
	データの活用	85.7	89.3	90.0
観点	知識・技能	74.8	78.3	79.5
	思考・判断・表現	56.4	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	67.2	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

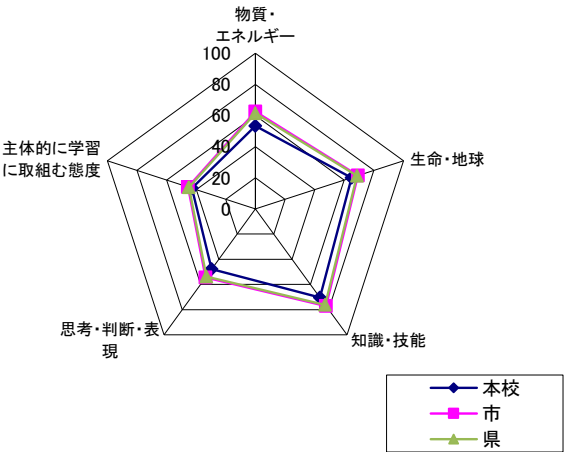
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は71.5%で、市の平均より2.3ポイント下回っている。 ○小数の問題や分数の問題などの正答率は、市の平均を上回っている。 ●計算については、繰り上がりや繰り下がり、計算、二桁のかけ算やわり算の正答率が低く課題が見られた。	・計算では、計算ドリルやステップアップシートの活用をして繰り返し練習をして習熟を図っていく。 ・前年度の学習の復習を取り入れたり、AIドリルを朝の学習や宿題などで活用したりして、反復練習をする。
図形	平均正答率は57.5%で、市の平均より3.9ポイント下回っている。 ●円についての理解や正三角形の作図についての基本的な理解が十分でない面が見られる。円や三角形の説明を記述する問題では、無回答も見られた。	・作図の仕方や基礎基本を身に付けさせるために、朝の学習や宿題などで繰り返し問題を解かせていく。 ・実際に図形をかいたり、実物に触ったりする活動を取り入れた授業を実施することで、体感しながら図形の性質を捉えられるようにする。
測定	平均正答率は75.0%で、市の平均より5.6ポイント下回っている。 ○地図から道のりを求めて計算する問題では、市の平均と同程度である。 ●重さや、時刻についての基本的な理解が十分でない面が見られ、日常生活に生かすまでに至っていない。	・重さについて、計器を活用して基本事項を確認し、単位と実物の量を結び付けて実感を持って理解できるようにする。また、他教科との関連を図り、実際に計測する体験を増やしていく。 ・実際の時計を活用して確認したり、生活の中で時刻や時間を求めたりする活動を行い、日常生活と関連付けながら理解を深められるようにしていく。
データの活用	平均正答率は85.7%で、市の平均より3.6ポイント下回っている。 ○無回答の児童がいるため、正答率は平均を下回っているが、グラフの読み取りはおおむねできている。	・グラフを読んだりかいたりする学習を繰り返し行い、さらに習熟を図る。 ・算数だけでなく社会科など他教科でも活用する機会を設定して指導する。

宇都宮市立御幸小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	53.3	62.5	61.5
	生命・地球	64.9	69.2	68.6
観点	知識・技能	70.4	77.2	76.3
	思考・判断・表現	47.9	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	42.9	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、53.3%で市の平均より9.2ポイント低く、観点別の「知識・技能」は、市平均との差が大きい状況である。 ○身のまわりのものについて、電気を通すものと通さないものを選ぶ問題では、正答率が市平均と同程度であった。 ●鉄くぎを使って磁石を作り、方位を調べる実験の問題では、県の平均正答率よりも10ポイント以上低かった。	・豆電球を使って、回路を作ったり、電気を通すものを調べたりするなど、興味をもって取り組めるような活動を引き続き継続していく。 ・鉄くぎに磁石のN極をこすりつけたら、その部分が何極になるか、予想をしてから実験をし、結果をしっかりと確かめてからまとめていくといった、実験の仕方やまとめ方を意識した活動を行うことで、理解を深められるようにする。 ・授業の導入や振り返りの時間に、AIDリルを有効に活用することで、学習内容の定着を図る。
生命・地球	平均正答率は、64.9%で市の平均より4.3ポイント低い。 ○観察記録カードの内容をもとに共通点や差異点を見つける問題では、平均正答率が90%を超えており、市を上回った。 ●紙テープを使った4つの棒グラフから、実際のホウセンカの育ち方を選ぶ、ホウセンカの育つ順と草たけの関係を読み取る問題では、正答率が低かった。 ●棒温度計の目盛りの読み方が身に付いているかを見る問題や温度の変わり方を比較する方法を考える問題では、市と比べて平均正答率が低く、太陽と地面の温度の関係について十分に理解できていないと言える。	・ホウセンカやマリーゴールド・ヒマワリなど、実際の育ち方とグラフが意味する内容について、関係を読み取ることが苦手な傾向がある。実験や観察を多く取り入れることと合わせて結果を予想したり、考察したりする活動で自分の考えを説明する場面を設定し、思考・判断・表現の力を身につけるようにする。 ・日なたと日かげの地面の温度の様子を調べる実験では、なぜそのような結果になるのかを予想して実験に取り組ませるとともに、温度計の使い方などの技能面の確認をし、また、結果をもとに考察をする場面で自分の言葉でまとめたり、話し合ったりする活動を取り入れて、理解が深まるようにする。 ・授業の導入や振り返りの時間に、AIDリルを有効に活用することで、学習内容の定着を図る。

宇都宮市立御幸小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「しょう来のゆめや目標をもっている」「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定的回答は、それぞれ、89.3%、96.4%と、どちらも市の平均を上回っている。また、「教科などの学習はしょう来のために大切だと思いますか」の質問では、すべての教科において肯定的回答が9割近くを占めている。本校の重点目標である「キャリア教育の推進」について、今後も学校と家庭が連携しながら進めていきたい。

○「1か月に、何さつくらい本を読みますか(教科書や参考書、まんがやざっしをのぞく)」では、「11冊以上読む」の回答が市を上回っている。また、「学校の授業時間以外に、ふだん(月～金)、一日当たりどのくらいの時間、読書しますか(教科書や参考書、まんがやざっしをのぞく)」では、1日当たり30分以上読書すると回答する割合も市の平均よりも高い。朝の読書の時間やボランティアによる読み聞かせ、週1回のクラスでの図書室利用、各学年に応じたチャレンジブックなど、本校の読書推進活動の成果が表れてきたのではないかと考えられる。

○「人と話すことは楽しい」や「だれに対しても、思いやりの心をもってせつしている」の肯定的回答は、それぞれ94.7%、89.3%とどちらも市の平均を上回っている。学級活動や特別活動など様々な教育活動で、自他のよさを認め合う機会を意図的に設定し、引き続き思いやりをもって他者に接する態度を醸成していきたい。

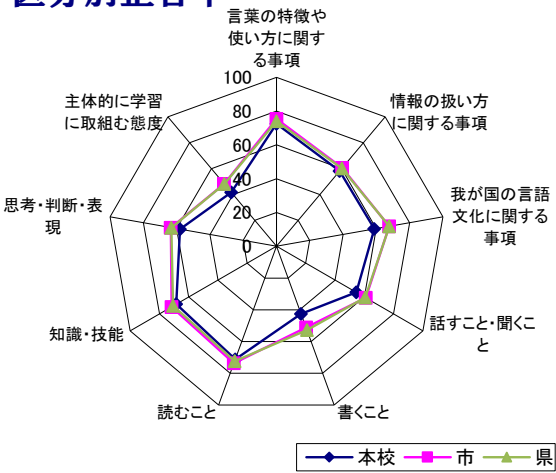
●「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」や「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定的回答は低く、市の平均よりも下回っている。児童が主体的に家庭学習に取り組めるような具体的な学習方法を示したり、家庭に協力を呼びかけたりして、改善を図っていきたい。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」や「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の肯定的回答は、市の平均を下回っている。児童一人一人が自分の考えをもち、ICTの活用や発表の場を工夫し、自分なりの方法で表現する活動の充実に努めたい。

宇都宮市立御幸小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	72.5	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	58.2	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	58.8	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	54.5	61.0	60.7
	書くこと	42.6	51.2	52.8
	読むこと	71.2	73.7	72.4
観点	知識・技能	68.5	71.7	70.6
	思考・判断・表現	58.0	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	41.6	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

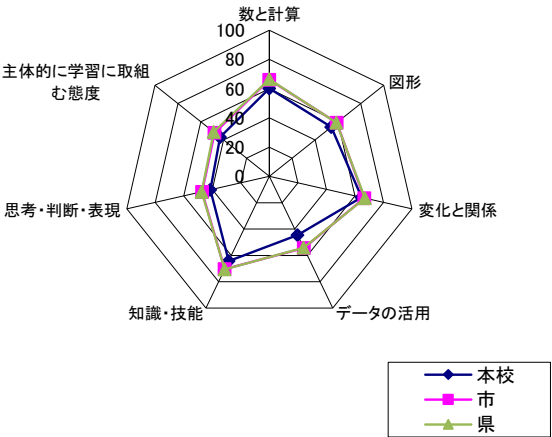
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は72.5%で、市の平均より2.9ポイント低い。 ○漢字を読むという問においては、9割以上の正答率だった。 ●漢字の書き取りや言葉の学習においては、市より5ポイント以上下回る内容のものもあった。	・ドリルを活用して繰り返し取り組み、ミニテストで定着度を確認しながら、学習を進めていく。 ・プリントやAドリルを活用し、既習漢字について復習する。また、文法においても復習プリントに取り組むことで、学習内容の定着を図る。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は58.2%で、市の平均より2.3ポイント低い。 ○情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約する問題では、市の平均正答率より約3ポイント高い。 ●情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話している問題では、市の平均正答率より約3ポイント下回っている。	・資料の読み取りから理由や事例などを挙げて考える場を設け、学習内容が深まるように指導していく。また、他教科においても積極的に資料を活用する場面を設定していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は58.8%で、市の平均より8.9ポイント低い。 ●ことわざの意味を知り、正しく使っている問題では、約9ポイント下回っている。	・単元ごとに新しく触れる言葉の意味調べなどを取り入れることで、辞書の活用を促すことで言葉への興味関心を高めていく。 ・自主学習ノートに学習内容をまとめることで、語彙力を高めながら、達成感を味わえるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は54.5%で、市の平均より6.5ポイント低い。 ○話の中心を明確にするために話し手の工夫を捉える問題では、市の正答率と比較すると2.4ポイント上回った。 ●話し合いの内容を聞き取る問題では、市の正答率より8ポイント低い。	・授業中においてペアやグループ、全体を通して、話し合いの活動を多く取り入れる。自分の考えと共通する点と相違点を意識しながら聞き取ったり、自分の考えを筋道を立てて相手に伝わるように積極的に話をしたりすることで、話す力、聞く力を付けていく。
書くこと	平均正答率は42.6%で、市の平均より6.5ポイント低い。 ●指定された長さで文章を書く問題や事実を伝える文章を書く問題では、約8ポイント低く、条件に合わせた段落構成で文章を書くことに課題がある。	・テーマや文字数を決めて文章を書く機会を設ける。また、日記指導に取り組むことで、書く機会を増やしていく。 ・書いた文章を発表する場を設けることで、話す力、聴きとる力、さらにどんな文章が付け足せることができたかを意識させることで、書く力を育てていく。
読むこと	平均正答率は71.2%で、市の平均より2.5ポイント低い。 ●説明文の内容の読み取りより、物語の内容の読み取りにおいて課題がある。	・朝の読書の時間を利用して、様々な文章に慣れるように指導し、文章読解力を向上させていく。 ・長文の読解においては、内容を要約したり、作者の意図を考えたりすることで読み物の楽しさを理解し、長文に慣れるようにする。

宇都宮市立御幸小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	60.2	66.1	66.4
	図形	54.1	58.9	58.8
	変化と関係	64.7	66.6	67.0
	データの活用	44.6	54.4	54.2
観点	知識・技能	64.3	70.4	70.6
	思考・判断・表現	41.4	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	43.1	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

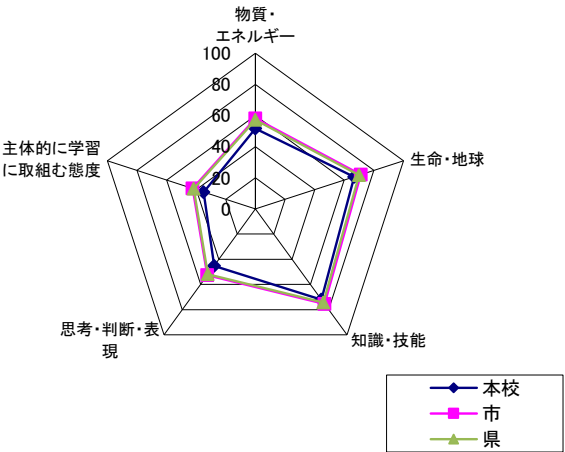
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は60.2%で、市の平均より5.9ポイント低い。 ○与えられた分数を数直線上に示す問題は、平均正答率が96.1%であり、市より4.1ポイント高い。 ●わり算・計算のきまりの問題では平均正答率が45.1%で、市より18.6ポイント下回っている。分配の法則についての理解に関しても、平均正答率が33.3%と低く、市より14ポイント低い。	・数直線や図を活用し数の大きさや関係を視覚的にとらえさせるとともに、式、言葉などを使って、計算の意味や計算の仕方について説明する活動を多く取り入れる。 ・分数の計算のやり方を図や数直線など視覚的な支援により、イメージさせやすくしたり多くの問題に取り組ませたりして定着を図る。 ・4年生までの復習問題や、フォローアップ問題、A1ドリルを活用して、計算の習熟を図っていく。
図形	平均正答率は54.1%で、市の平均より4.8ポイント低い。 ○平行四辺形の作図の問題は、平均正答率が60.8%で、市より3.9ポイント高い。 ●面積の単位の理解に関しては、7.8%で、市より12.3ポイント低い。 ●分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み取り方の問題では、74.5%であり、市より約10.9ポイント低い。分度器の使い方に問題がみられる。	・平面図形や立体の学習では、具体物を実際に観察したり操作したりする算数的な活動を通して、特徴を理解できるようにする。 ・分度器の使い方についての理解が不十分であると考えられるので、作図をするときに分度器の目盛りの読み方や使い方を復習しながら定着を図る。コンパスや分度器の使い方を再確認し、朝の学習や宿題などで作図をする機会を増やしたり、作図の仕方を個別に教えたりすることで、道具を適切に使って正しく描くことができるようにする。
変化と関係	平均正答率は64.7%で、市の平均より1.9ポイント低い。 ●伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める問題では、市より約4.6ポイント低い。 ●2つの数量の関係を、もとの大きさの何倍になったかを考えて比べる問題では、市より約12ポイント低く、苦手意識が高い傾向にある。	・問題を考える際に、伴って変わる2つの数量及びその変化の仕方に着目しながら、関係を表に整理し、規則性の活用について数直線や図、式を使って表現できるようにする。 ・記述式の問題について、自分の考えや学習の振り返りを書く時間を十分確保するとともに、自分の考えを説明したり友達に伝え合ったりする活動を意図的に取り入れていく。 ・説明をする際に、ひな形を提示し、どのように説明すると分かりやすいか考えられるようにしていく。
データの活用	平均正答率は44.6%で、市の平均より9.8ポイント低い。 ●折れ線グラフから変わり方を読み取る問題では平均正答率が33.3%で、市より約18ポイント低い。 ●人数の違いを求めるのに必要な二次元表の欄を理解し、求め方を説明する問題では、市より約8ポイント低く、無回答が17.6%になるなど、問題解決の手立てが見つからない児童が多い。	・他教科でも算数と関連付けて、表やグラフから分かることを考える活動を多く取り入れ、表やグラフを正しく読み取り、必要な情報をもとに問題を解決する力を育てる。 ・記述式の問題について、自分の考えや学習の振り返りを書く時間を十分確保するとともに、自分の考えを説明したり友達に伝え合ったりする活動を意図的に取り入れていく。

宇都宮市立御幸小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	51.6	58.1	57.2
	生命・地球	66.7	71.1	70.0
観点	知識・技能	72.1	75.5	74.4
	思考・判断・表現	45.2	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	35.0	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は51.6%で、市の平均より6.5ポイント低い。 ○湯気は液体であることを答える問題では、市より約10ポイント高い。 ●「物のあたためり方」の空気のあたためり方をもとに実験の結果を推測し、あたためられた空気の動き方を説明する問題では市より15ポイント低い。 ●「水のすがた」の予想が正しかった場合に得られる実験結果のグラフを選ぶ問題では、市より約12ポイント低い。	・実験のねらいや目的を明確にし、実験の前に予想を立て自分の考えや結果の見通しを全体で共有してから、実験を行う授業展開を継続して行っていく。 ・実験活動を多く取り入れ、実験結果の推測や考察を通して、分かったことを自分の言葉やキーワードを使って説明する活動を充実させ、思考・判断・表現力を育んでいく。 ・Aドリルを授業の導入や振り返りの時間等に有効に活用したり宿題に出したりすることで、学習内容の確実な定着を図る。
生命・地球	平均正答率は66.7%で、市の平均より3ポイント低い。 ○「1年間の植物の成長」の季節ごとのサクラの変化に関する問題では平均正答率は80.8%で市より約8ポイント高い。 ●「雨水のゆくえと地面のようす」の実験結果をもとに、粒の大きさと水のしみこみやすさの関係を記述する問題では、市より約12ポイント低い。 ●「自然の中の水」の水を入れて覆いをしたビーカーの数日後の様子を指摘する問題では、市より約13ポイント低い。	・学校の畑でヒョウタンやヘチマを育てていることや校庭のサクラの木を理科の時間に観察してきたことで、その変化に興味を持ち知識の定着に繋がったと考えられる。今後も実物を観察する機会を十分に設けていきたい。 ・単元の学習が終わった後に振り返りを記述することで、何を学び理解できたかを自分の言葉で明確にしていく。その蓄積を行い、見直していくことで知識の定着や表現力を高めていく。 ・Aドリルを授業の導入や振り返りの時間を使って有効に活用したり宿題に出したりすることで、学習内容の確実な定着を図ってきたい。

宇都宮市立御幸小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業を集中して受けている」の質問に対する肯定的回答は94.3%であり、市の平均を1.4ポイント上回っている。授業を集中して受けられているようになってきた背景には、授業を受ける上での約束事がしっかり守られていることや、授業を集中して聞く、考えるといった学習環境が整っていることが考えられる。今後も集中しやすい環境作りを整えたり、児童が分かる授業を展開したりすることで、児童の学習の定着を図りたい。

○「総合的な学習の時間が好き」の質問に対する肯定的回答は88.5%であり、市の平均より3.5ポイント高い。興味のあることに対して自ら進んで調べ、考え、まとめる活動が好きになった要因としてタブレットの活用が大きく関係していると考えられる。今後もタブレットを効果的に活用し、調べ学習を更に深められるような授業を展開していきたい。

○「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の質問に対する肯定的回答は、88.5%であり、市の平均より5.2ポイント高い。授業で話し合い活動を積極的に導入してきた成果だと思われる。一方、「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の質問に対する肯定的回答は65.4%で、市の平均より13.8ポイント低い。このことから、自分の考えを伝えたり友達の考えを聞いたりすることはできているが、深い学びにつながっていないことが考えられる。教科を問わず話し合い活動を取り入れた授業を展開し、発表の場を工夫して友達と意見を交換する楽しさやよさを実感できるように工夫していきたい。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の質問に対する肯定的回答は65.4%で、市の平均より5.2ポイント低い。また、「家で学校の授業の復習をしている」の質問に対する肯定的回答は51.9%で、市の平均より9.8ポイント低い。一方、「家で宿題をしている」の質問に対する肯定的回答は市や県の平均とほぼ同じなので、家庭学習の習慣は身に付いてきていることが伺える。宿題だけでなく、自分で計画を立てて家庭学習に取り組めるよう、課題の出し方を工夫したり、計画的に家庭学習に取り組んでいる児童の例を紹介したりして意欲を高めていきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」の質問に対する肯定的回答は67.4%で、市の平均より4.9ポイント低い。字数を決めて書かせる、振り返りを文章で書かせるなどして、国語の授業で「書く」活動を積極的に取り入れたい。また、国語だけでなく、算数の授業では問題の解き方を文章で説明させる、理科の授業では結果の考察を自分の言葉でまとめるなど、他教科でも「書く」活動を取り入れて、自分の考えを書く力を身に付けさせたい。

宇都宮市立御幸小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学習規律の徹底(学びに向かう集団作り、規範意識の高い学級づくりの実践)	・「みゆきっ子学習スタンダード」に沿った学習規律の定着と共通実践	・「授業を集中して受けている」の質問に肯定的に回答した5年生児童の割合は94.3%で、昨年度4年生だった時と比べて約5ポイント増加している。
・基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	・朝のぐんぐんタイム(漢字・計算・読書・音読・読み聞かせ)の充実 ・「スマイルネクストドリル」「宮っ子学力ステップアップシート」(年5回全校実施)の活用 ・習熟度別学習、T・Tの活用	・4・5年生ともに、漢字の読みについては正答率が高いが、漢字の書き取り、計算については正答率が低い。特に4年生では、繰り上がり・繰り下がりのある計算や2桁のかけ算・わり算、5年生では、わり算や計算のきまりを使った問題において、正答率が市の平均と比べて大きく下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・自分の考えを文章でまとめる問題や、求め方を説明する問題では、誤答や無回答が多く見られる。	・一人一人が自分の考えをもち、相手に分かりやすく伝える力の育成	・授業のねらいを明確にし、児童が自分の考えを表現したり、互いに考えを伝え合ったりする活動が充実した授業づくりを目指す。 ・授業のまとめや振り返りにおいて、学習して学んだことを考えさせ、書く目的を意識しながら文章に表すことができるよう指導していく。
・漢字の書き取りや四則計算の問題では、正答率が低く、基礎的内容の理解が不十分である。	・基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	・小テストや宮っ子ステップアップシート、タブレットを活用し、朝の学習の時間や宿題等で補充的な学習を繰り返して行い、基礎・基本の定着を高めていく。 ・今回の調査や普段の授業で課題が見られる問題や学習内容については、宿題の内容や出題の方法等を工夫することにより補充していく。
・計画的に自分から進んで学習することにおいて、肯定的回答が低く、課題が見られる。家庭学習に主体的に取り組もうとする態度が十分育っていない。	・家庭学習の習慣化に向けた指導や自主学習の奨励	・学年の発達段階に合わせた「家庭学習のすすめ」や「家庭学習カード」を活用し、児童が計画的に学習に取り組めるよう指導を工夫する。 ・自主学習の方法や内容について丁寧に指導するとともに、よい取り組みをしている児童のノートを紹介していく。 ・学年だよりや懇談会等で、家庭学習の取り組み方について保護者に理解と協力を求め、家庭との連携を図る。